ぼくは、この話を読んで虫がなかなかでるところを見ることがあまりなかったので、虫を思いかべてじっくりけんけんすることが楽しかった。

ぼくのじゅくには、少し見ためがこわい先生が、いる。その先生は、小がらで、めつきがこわくて、こえもこわくて、あまりわらいがありません。けれどじゅ業は、よくすすみます。けれどその先生は、方法は、やさしくて、とても生徒たちのことを思っている先生なのです。なので、見ためだけでは、だんしないということがわかった。

母が戻る前に、知ったあとでかんがえようかなと、かくしたものにさがしてみた。

母は、雨の日のふりはじめのにおいがすきで、よくまどをあけねていたそうだ。そのてんでは、なにもしらなかったが、この雨のにおいは、土の中の小生物のおならだっていうことをつかって、まどをしめるようにさせたそうです。

ぼくもしったら、ぜったいにまどをあけたくなる。

ぼくは、人や物を外見だけで見たりで、内まで知ることが大切だと思った。そして内を見ないでいかないでよかったなんてだめだったり、好きとかわかった。